

新鑄
 椿說弓張月
 續編 卷五

~13
 3908
 17



へ 13
3908
17

鎮西八郎 椿説弓張月續編 卷之五
鳥朝外傳

東都

曲亭主人編次

第四十一回

松壽月前小妻の屍を躲と
真鶴身後小主の首小代に

殿夫人ハ。寧王女御。別り。里之子松壽。小扶掖。姑場の
かへと。落し。軍兵。捕。と。脱。果へ
も。あ。は。れ。は。も。か。く。も。あ。は。な。れ。一。方。の。困。は。し。て。王。女。を。後
か。と。く。落。し。進。せ。ん。と。て。忽。地。小。自。殺。し。し。松。壽。ハ。せ。ひ。ま。く。
おん。首。級。取。り。て。利。勇。が。陣。に。赴。た。信。中。の。ひ。ら。く。ら。て。困
次。解。せ。ん。と。謀。れ。も。利。勇。元。來。孤。疑。あ。つ。た。は。な。兵。士。を。退
け。ど。その。方。を。野。嵩。の。ほ。と。り。に。叱。し。て。里。の。悪。少年。あ。分。付。



王女の往方を撈索すること。いと急なるに。松壽のすまじくは
 若しけほど。氣色あなせむして。あまの王女を追ひ出せば。は
 まりし緒。姑場のつらさ。いふもして。王女は環會なり。
 緯の越え。吉進のせむ。脱はるる。はりあもに脱。り脱。は
 か。くハ。太刀の刃。れ。続。ん。行。ハ。あ。ま。り。に。防。た。戦。ひ。死。出。の。御。導。り。
 し。こ。り。と。て。只。官。お。り。ひ。定。め。て。も。定。め。が。た。ハ。与。那。城。こ。り。安。
 勢。里。の。村。稍。盡。処。何。地。へ。伊。計。の。御。ら。り。過。く。野。を。越。山。と。越。来。の
 か。こ。り。い。く。手。負。た。る。り。の。ご。も。或。ハ。肩。あ。け。け。或。ハ。戸。板。お。扛。
 乗。し。て。あ。り。の。り。の。り。ち。り。松。壽。ハ。これ。を。え。く。あ。く。説。こ。村。長
 め。た。れ。翁。を。嘆。び。さ。り。て。縁。故。を。問。む。その。の。の。答。へ。吾。儕。を
 姑。場。の。御。民。あ。る。が。つ。ら。れ。の。の。ご。も。城。隍。祭。祀。よ。出。く。々。不。意

も南風原の親方利の仰おり。寧王女お捕とりて。夥おの。皆。見。錢。を
 め。つ。人。為。お。駭。計。の。壯。伎。も。謀。し。あ。し。越。来。な。れ。石。橋。乃
 上。あ。り。王。女。主。従。お。追。ひ。著。矢。庭。お。移。り。と。ん。と。て。聞。た。る。侶
 乃。れ。女。房。を。ら。ち。殺。し。て。ら。い。ひ。誰。の。あ。り。王。女。あ。の。あ。り。死
 神。の。憑。て。膂。力。ハ。百。人。に。合。し。た。る。と。く。罟。械。と。り。て。縦。横。を
 早。に。働。た。る。あ。為。作。ハ。餓。れ。虎。の。群。拵。ハ。羊。の。中。へ。走。り。入。り
 小。異。り。し。に。當。れ。た。頼。ひ。お。薙。伏。せ。破。く。つ。や。し。く。あ。り。牛。打
 童。が。車。切。お。破。く。あ。り。鼓。拍。を。子。の。胴。切。あ。る。も。あ。り。
 ま。ご。雀。い。ろ。耐。あ。の。あ。ね。お。多。く。ハ。乾。竹。割。お。打。ら。ま。さ。れ。て。命
 助。つ。れ。ハ。稀。な。ん。翁。が。愛。子。も。日。暮。親。お。抱。お。も。い。し。報
 ひ。お。や。胸。さ。り。刺。お。が。れ。と。ど。な。ほ。死。も。中。で。か。れ。こ。と。お

ことと告あしし。これすてハ物をもひつるお。今ハ只蛇の息ぞ
 かり。うらハ熱なるこの草野も。うらハいと遠くおがゆる。親のこころ
 の闇をのちて。年の齡も十六夜月の。欲おふけ。お悪業を
 うての。いのが毛代吹て。疵代求し。後悔も。是みる迹の。あまる。
 神薬を早て親おかす。れ子ども亦が死羞代。いうかせんとて
 かに口説よ。と泣が。よと泣。もみりとも。に啜あけて。涙お流る。
 さら毛髯。そのりたる腰をうら伸し。おのが家踏へかへり。また。
 松壽のこれを目送。うて。そのま。流の撃手。とらん。王女ハ。しづ。お
 せ。とらん。いとく。おりとも。とて。其処より。い。踏代。し。とれ。
 紙束の石橋へ。と走りゆく。行お。日もとや。没果て。二日の。月。子
 かみ。お。と。え。と。ハ。橋の。ら。お。へ。鮮血。駭。く。流。と。と。り。六

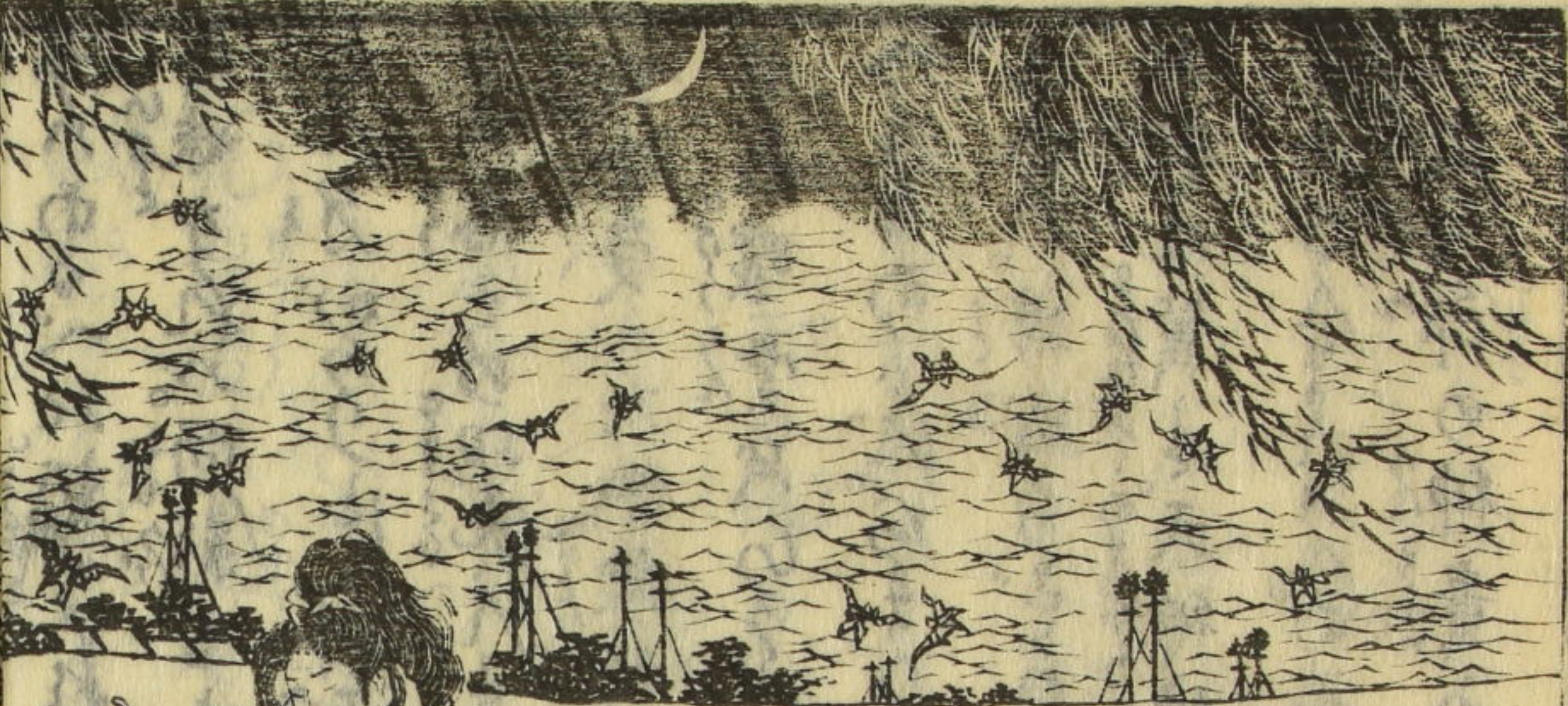
これ林間お紅葉。踏。秋。惜。お。異。ま。ら。は。哀。ま。なり
 真鶴ハ。い。い。働。ぬ。と。お。ほ。く。て。全。體。傷。う。ざ。れ。処。も。ら。曲。之
 橋の下。お。俯。し。倒。と。う。て。松。壽。ハ。か。れ。景。迹。お。胸。を。う。て
 かり。躓。て。砂。が。下。で。と。ら。て。抱。れ。起。こ。も。ら。る。お。く。百。千。の。強。敵
 代。替。も。退。け。る。ん。壯。夫。も。恩。愛。の。ま。の。中。か。と。あ。ら。て。雨。の。ま。く
 そ。あり。落。る。涙。が。押。拭。ひ。つ。左。辺。右。辺。を。え。え。れ。お。蝙蝠。の。花
 か。外。お。め。に。か。れ。の。の。な。な。れ。ど。な。ほ。人。や。せ。く。と。て。声。を。ひ。て
 せん。や。よ。真。鶴。之。魂。い。ま。と。天。お。ぬ。ら。ば。五。魄。い。ま。と。地。お。入。ら。ど
 へ。つ。が。い。の。の。お。め。く。九。い。れ。と。活。る。物。夫。あ。れ。ば。か。う。ら。は。妻
 あり。一。世。の。安。危。を。等。く。し。百。年。の。苦。樂。お。共。お。さ。る。偕。老。同
 穴。の。契。孰。く。他。お。あ。ふ。べ。れ。あ。ら。ん。も。吾。們。ハ。忠。義。お。綿。れ。縁。

かねが妹夫といふも名のとめて外お過せし先陰ハくろとまをせ
 山鳥の尾上ハ隔れ寝えくも恋しとおりど恋しとも。しつと
 且で忠臣郎婦の鏡ともなれ。うらんとて互お磨し誠心と神
 も憐れとるひつるハ真和志の山の帯にさる。すな長川の鏡りゆひ
 也。夫婦むとつふよることゆへん。と多ひしゆのを言語同断持場の
 雉子の矢ハ傷られ照射の鹿れ列子繩よ。かた別どのあんと
 へ。うらむとりの命なり。と秋か死せ世ハ啣けり。且して鏡うちらこ
 こハマれおもあて愚癡なりけり。死しれ妻ハ歎くともかへん。は
 つぐと多ひかり。君真物の擁護あふん。王女と不思議に。
 虎穴龍潭の危さと脱とるも。そのの世あかされ。ハ中婦君
 利勇ホい。うら後めく。草刈刈らむ。木と伐きしても。索出さて
 中のあるべれ頼なれ。うら真鶴ハ王女とおむし。年お生れて廉夫人
 の妹なれば。面影もよく消え。今真鶴が首たけ。寧王女乃
 おんががりと。利勇を欺えは。うら死し。更ハ君お代る。
 その忠その功。比んむ。のなるべま。れど。狡猾奸雄。うら利勇ハ。賈
 頭を受へたや。縦利勇ハ欺くとも。幻術りて。千里の外も瞭然
 くと。矇雲。い。う。せん。と。む。かり。ゆ。して。寧王女の。腹。と。果。た。さ。る。
 へ。も。あ。ら。む。う。ら。み。深。く。慮。と。る。そ。う。ハ。捨。て。の。ら。浮。む。瀬
 も。あ。れ。緯。成。ら。ど。の。それ。ま。な。り。を。し。利勇を。怒。り。う。ら。矇雲
 代刺ん。冀。と。天神地祇。と。らい。か。ま。い。の。と。ん。ま。ん。が。ん。お。や。つ。う。と。お
 く。の。と。ん。ま。ん。が。ん。の。を。り。が。嶽。の。山。け。神。三。十。六。島。の。お。ら。ら。と。う。
 二郎五郎の神童。ふ。至。る。も。て。邦。國。衛。護。賊。臣。退。治。の。八。千。銖。

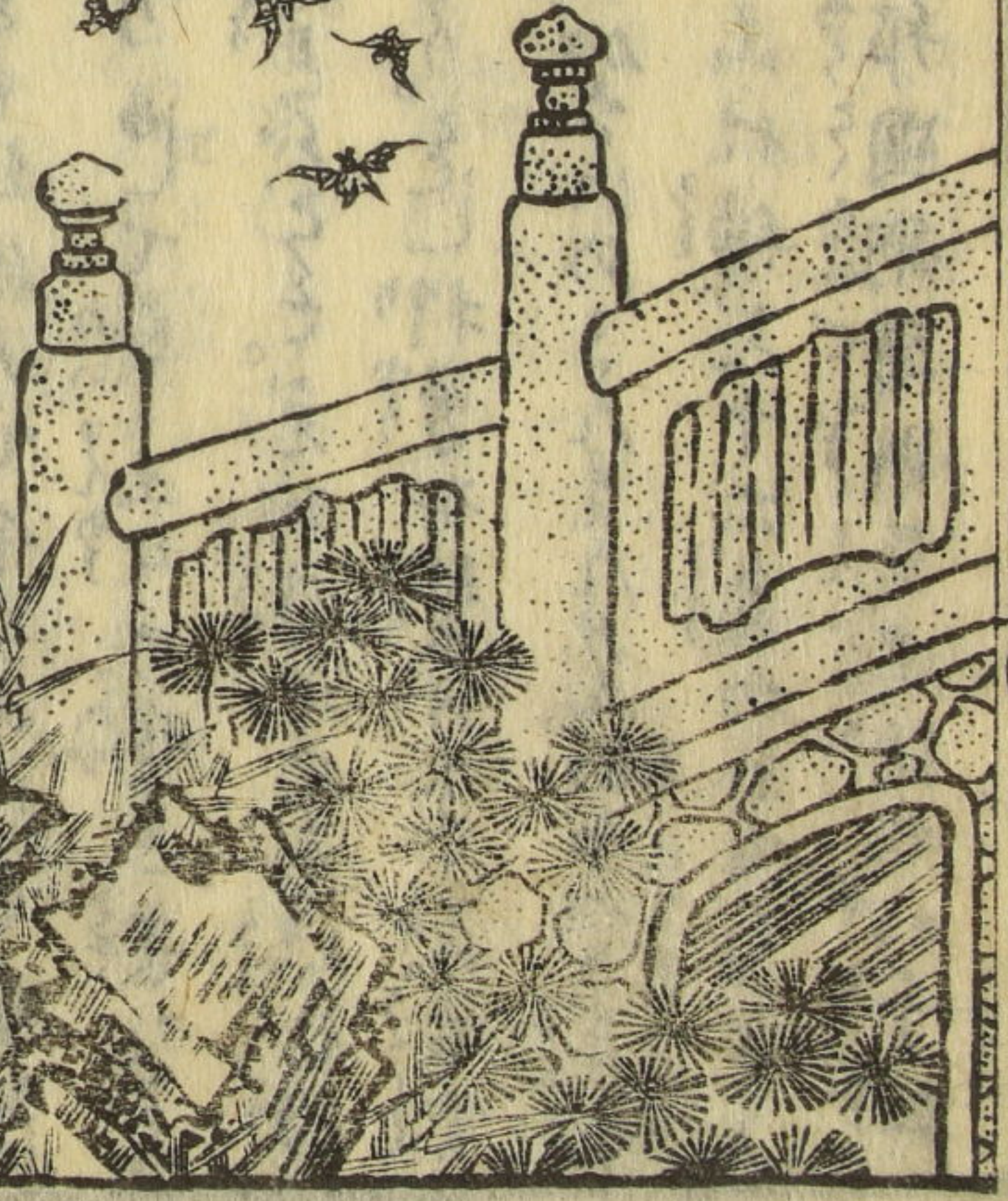
春丸号長月書齋



春の風を待つ



松壽越未ふ
亡妻の首級と
あて



持論の別所 續集卷之五

けて。利勇、矇雲、亦が眼、又遮て。亡妻の首をりて。王女の、
 お代らせ、と公の中、爪折し。中が、首を破く。ちて、錦
 の半臂、お押、畏と、屍を、川へ、衝流して。形のごとく、水葬し。其
 世、契れ、妹と、夫の、縁、果敢、なれ、月魄も、おらて、往方、を、定り
 づらぬ。王女の、うへ、お恙、なく、恨、仲田の、御平安、坐、上、原、後
 あし、野、高の、屯へ、走、ゆ、れ、る。その、と、利勇、ハ、野、高、に、
 て、か、ろ、く、あ、く、勤、と、越、来、の、石、橋、あ、て、悪、少、年、亦、が、寧、王、女、を、捕
 捕らんとして。悉、你、痲、又、負、半、死、半、生、なる、よし、と、笑、て、大、お、呆
 是、婦、く、び、て、王、女、と、誓、苗、人と、議、と、れ、折、り、ら、里、之、子
 松、壽、ゆ、り、来、く、り、お、中、某、越、来、の、属、村、ある、照、屋、安、慶、田、の、間
 母、く、幼、な、く、王、女、お、追、著、て、ゆ、い、が、王、女、お、の、中、に、神、さ、の、憑
 づ、れ、お、や、生、平、に、あ、り、て、い、と、猛、く、入、入、り。氷、を、こ、劔、に、提、く、立
 在、る、お、代、面、も、あ、く、は、撃、て、か、り。刀、尖、より、火、出、れ、ま、て、追、つ、り、へ、り。
 挑、と、戦、ふ、程、お、志、じ、こ、の、あり、な、れ、王、女、ハ、遂、あ、ら、う、ら、衰、へ、勢、ひ、お、
 了、て、逃、れ、し、ま、め、地、に、捉、り、引、伏、お、ん、頸、う、れ、落、し、て、お、ひ、た、勅、お、
 物の、憑、く、狂、い、な、れ、が、生、拘、る、あ、及、び、こ、い、と、遠、憾、こ、の、お、人、と、は、こ、り
 か、お、述、を、り、て、真、鶴、が、首、お、り、出、し、り。利、勇、り、眼、あり、て、質、頭、こ
 と、し、り、ん、お、ん。その、舌、引、せ、と、お、安、危、お、ら、の、中、お、決、て、ほ、り
 近、く、前、に、び、り、ひ、大臣、実、檢、し、た、ま、へ、と、い、り、利、勇、お、う、く、飲、び、く。左
 右、お、燭、火、兼、お、し、つ、これ、お、ん、お、お、嚮、お、廉、夫、人、お、誓、り、り、て、その
 首、級、を、り、て、お、し、も、松、壽、な、れ、が、聊、も、疑、も、く、や、く、こ、ら、ち、お、ひ
 り、お、中、。是、お、紛、り、へ、ら、も、の、お、ね、寧、王、女、お、て、め、り、け、り。お、迎、身、單

あつて。かゝる大功をなすれし。感激も堪と首里おすり。律
 の誅をすえぬげ。勸賞行るべし。中婦君の徳もひかり。誘
 まへ。といひ。て。俄頃。諸方の軍兵。引揚。蕉火。夥なり。て。は
 て。通霄。踏。其。その。曉。が。都へ。入り。ぬ。松壽。とい。とい。と。公。り。と。す
 る。ひ。は。り。ふ。輒。く。利。勇。と。謀。り。ゆ。く。且。怪。と。真。鶴。の。面。影。を。
 頗。王。女。も。似。れ。も。ま。ま。と。び。て。王。と。燕。る。の。こ。と。と。恥。る。に。利。勇。が
 衆。も。ろ。も。疑。う。れ。足。ら。ず。み。あ。め。ら。ば。王。女。の。純。孝。夫。人。の。節。義。
 及。君。真。物。の。憐。れ。て。か。い。う。と。い。し。う。あ。ま。こ。と。とい。と。憑。く。と。い
 ち。う。が。意。も。あ。ら。で。い。よ。利。勇。に。海。嶺。不。と。に。利。勇。も。こ。と。と。及
 二。が。り。の。さ。り。と。して。心。腹。こ。と。と。く。う。ら。め。じ。て。お。の。輔。に。化。す
 なく。昵。と。か。と。ら。ひ。ち。り。さ。ら。後。小。尚。寧。王。ハ。矇。雲。ハ。幼。術。不。魅

されて。忠臣節婦を殺し。世子併討して。却これ。快。此。度。乃
 勸賞行るべし。とて。中婦君。相譚。矇雲。その。昔。仰。せ
 か。矇雲。う。け。め。り。て。利。勇。ハ。國。相。と。し。松。壽。ハ。東。風。平。の。按。司
 と。と。當。下。尚。寧。王。ハ。只。顧。矇。雲。ハ。稱。嘖。し。其。國。師。の。直。言。小
 ち。う。て。王。女。ハ。毛。國。典。の。花。子。を。曉。仍。既。小。逆。徒。ハ。鉄。の。只
 お。ほ。つ。つ。な。れ。ハ。中。婦。君。有。身。て。その。兒。の。生。る。日。遠。く。は。と。い
 世。の。疑。ひ。な。れ。し。も。あ。ら。ば。老。て。位。は。傳。ふ。と。子。は。此
 り。小。仍。な。く。速。小。驗。を。え。ま。し。と。れ。と。宣。と。れ。ハ。矇。雲。微。笑。て。
 殿。下。な。ど。て。この。件。の。ゆ。ゆ。の。疑。ひ。の。曩。も。も。さ。ら。せ。と。く
 中。婦。君。の。胎。内。に。中。婦。君。の。子。ハ。權。者。の。後。身。と。あ。ら。し。ま
 と。故。小。有。身。と。れ。今。より。十。日。の。内。ハ

出でて。中子ハいと安らうよ。生れまふ。そのとれみこそ疑ひと解
あべつれ。とまう。ひふ尚寧王斜め。さぞ致ひ。この日國相利勇ハ
仰。産養の准伎。みん。いそがしまひる。有。形。も。中。婦。君。へ。あ。む
かりも。才。ふ。お。ほ。え。う。て。子。と。産。入。る。あ。る。べ。う。も。何。ら。ね。ど。指。の。神。子
が。れ。環。雲。が。ひ。と。何。慥。あ。ま。う。せ。し。の。故。こ。そ。あ。あ。と。あ。ひ。久。密
ハ。利。勇。を。あ。び。て。國。師。の。ら。ひ。つ。る。ゆ。一。切。を。を。び。に。つ。る。又。實。は
子。と。産。べ。れ。致。大。臣。と。い。う。小。お。く。る。と。同。が。利。勇。也。も。あ。く。ど。う。て。情
由。な。は。何。時。く。で。や。せ。た。れ。し。し。丁。の。と。れ。だ。お。中。子。ひ。う。り。も。あ。し
ま。さ。る。あ。年。浪。ち。び。く。ら。ら。ま。さ。る。五。十。し。か。く。な。り。あ。ひ。て。孕。ま。あ
る。や。の。あ。る。こ。の。ま。環。雲。國。師。の。旅。謀。あ。て。い。よ。改。を。い。ん。に。任。し
進。ら。な。ん。も。も。それ。ハ。生。れ。ま。あ。中。子。ハ。中。婦。君。の。胎。内。あ。の。あ。ど。

豫。と。阿。公。も。事。行。い。の。へ。遅。く。も。五。七。日。の。間。あ。へ。り。て。身。の
を。し。の。こ。ろ。安。う。れ。と。低。語。あ。も。中。婦。君。ハ。忽。地。満。面。小。笑。と。合。之。國
師。か。く。の。ま。く。奇。計。を。施。し。て。ま。ま。と。佐。る。と。い。と。致。さ。べ。し。加。旗
毛。國。典。誅。伏。し。て。王。女。廉。夫。人。又。首。次。授。く。ま。ま。の。枕。を。高。し。て
國。相。も。も。に。永。く。洞。房。お。樂。と。取。り。宿。望。ま。て。こ。の。お。足。を。ん
ま。ま。是。環。雲。國。師。の。嘉。惠。あ。り。と。只。管。小。稱。賢。し。て。ま。の。才。を。打
笑。へ。ハ。利。勇。後。方。と。見。え。り。て。密。語。ハ。又。し。く。す。べ。か。ら。は。垣。も。又。耳
の。り。秘。を。と。く。と。禁。れ。ハ。中。婦。君。ハ。慌。し。く。煩。々。擗。て。笑。ひ。以。て
忍。び。鳥。改。あ。て。ま。ま。と。れ。ぬ。

第四十二回

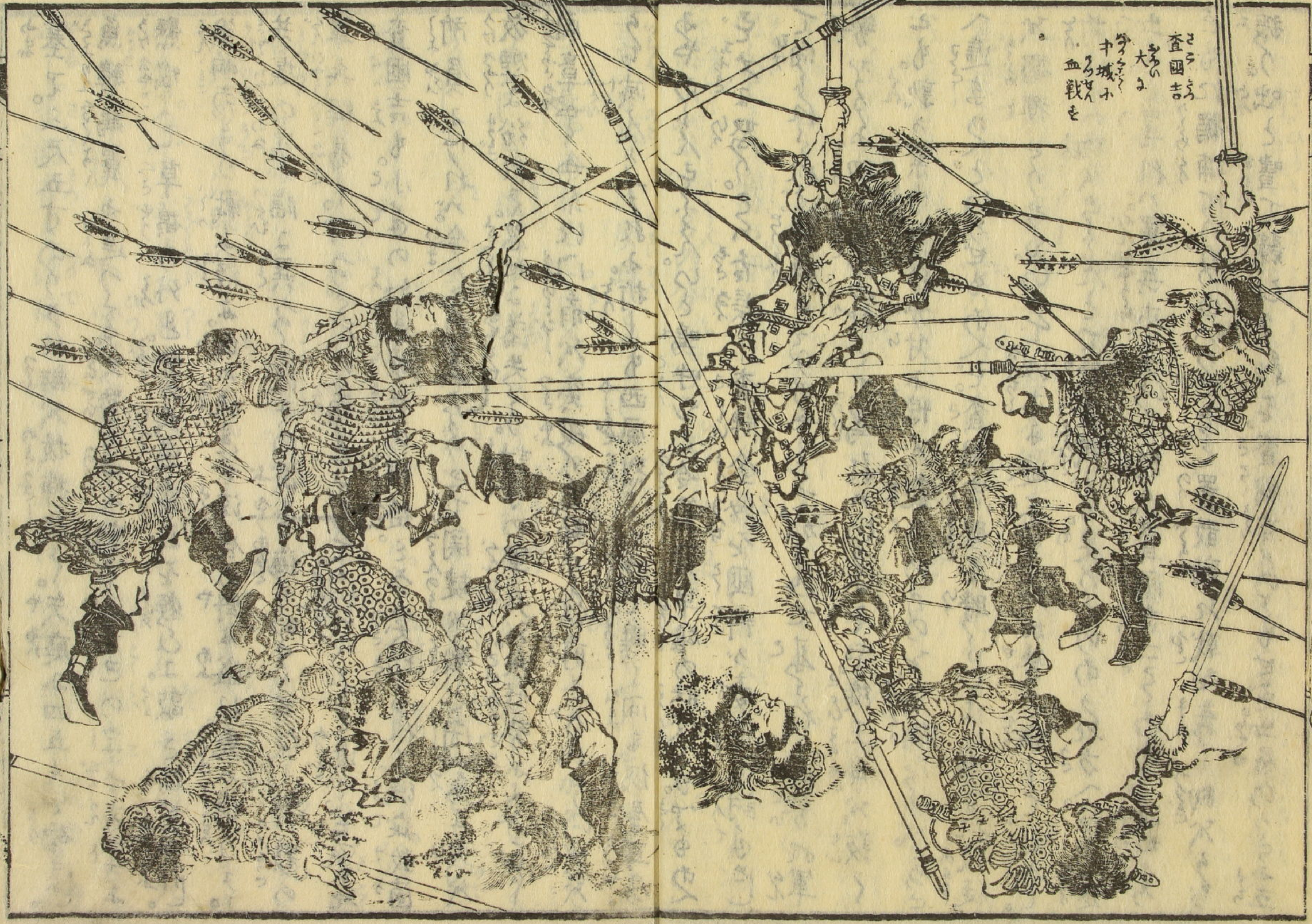
查國吉義ハ仗。中城。戰。ふ
兩孝子。驕。を。擗。く。越。来。走。る

提牌金直國吉の毛國興が親族あてその公を養と座とし。命火狂しとすれば健雄なれば松壽が中城殿へまゐりて王女と夫人を落しきりせんとしめあ任し。その身ハ駿馬ハ鞭を鳴り去り。毛國興が家ハ馳ゆれば國興が妻新垣家子鶴二男龜小繹の慈父説示し。父が送言ハ告あはして。さうしく小諫ハ励し。母子二人を後門より落しんとすれば家隷もや縁由やりれば。慌忙にけり。おの走踏ハ索の物を用いたつものゆゑに新垣まゝの終より懐胎す。こや臨月ハなりし。わいしく起居も自在なるに。熱お脱と出るとも足手まらつりあて便あてを母とて。母とて打捨お死て。ともららるゝ。脱出よといそげし。涙の外ハあましく。流んとも

せりり多し。兄も母も孝思あつて。さあぐあひにいらん母ハ轉小扶の。奴隷ともお早せんとして。呼びきたるに。りんの行あう。落して。かたまたま。日まの肩お物一つおれ。るゆもなれ胞兄分り。前またし。後おなり。そ件の橋と握出さんとす。ふ兄ハ十五お。一足とて。身と。二ッ。あて。あて。あて。しく。の。挙動と。さてもう。何せ。れ。小腕あて。母と。早りて。走らん。る。路。四。五。町。が。程。も。お。り。とな。れ。と。孝。公。九。常。ろ。う。が。れ。兄。の。ま。を。勵。し。つ。お。の。兄。と。諫。め。つ。查。國。吉。が。浅。う。な。ね。情。の。礼。謝。の。間。も。涙。お。ま。く。ぬ。道。芝。の。露。く。涙。ぐん。父。が。ら。ん。が。お。ひ。お。ま。ご。お。悼。しく。滅。込。心。肩。の。痛。より。苦し。れ。胸。ハ。碎。り。て。く。生。る。う。ひ。な。れ。息。杖。も。さ。ご。け。く。と。ん。が。あ。ら。竹。の。よう。り。く。足。と。踏。固。め。さ。を。ら。んと。する。秋。の。日。と。共。の。お。中。り。やく。落。て。る。浩。越。お。利。勇。が。先。鋒。の。兵。士。四

春念史長月讀齋齋

五十騎生并くと推寄来て前後の門より乱と令り。毛國典罪ありて既よ首を刎られり。さるふよりて妻と子ごもと搦捕て追せよ。と南風原の親方頼仰をらけり。吾們に分付せられてさあひ入り。さうく物縛受よとぞ嗚りけ。此時までも查國吉をひとり後堂よりて耳や側られこの処まで一柱さえとる。始亀親子忽地ふ追ひ詰られて。マッ志も化とさる人夫女子へ已んやありの為よかさらはる。君子へ已とさるりの為ふ。死せよとあり。マッ百年の命は捨て。毛按司が年束の恩も答る。この耐なり。と知るより。剣と引提て走り出。さるさるあもひね。あつらふ何人ぞこれ嚮お仰をらけて。さるおまふり。お人とのこそせん。さるぞ。此ホ紫中官の分付と誑り。技蒐してマッ切と奮る。さるあやあらんさるえいと嗚呼くと冷笑へ。早雄の壮伎ども。マッあそ大に怒り。さる舌長し。查牌金汝を國典が妻子の討てて向られと捉脱するりやとて。かきみて来され。加勢れ軍勢なるふ功と奮る。お欲とて罵れ。いふそや。縦王命は叛くとも。孰る紫中官の分付お怖ん。親子ののを生拘たる。さるへ遍さる。といらせもあんぞ。查國吉眼を睜り。はしやられ彼徒。汝搦獲たりとも。いそを汝も遍さる。加勢と稱して乱入し。折よくハ物かさるんとて。殺盜賊ども。足りとのあうれ方へさうく退出よ。と罵れ。ハ軍兵ホさる。怒り。查國吉ころろあり。這奴り。さるに搦捕てん。のさいつせ。と罵散動れ。戟を糸。劔をち振り。咄と嘯て。競ひうれを。查國吉のともせ。と出居のうらふ。



吉田 大
中城 小
血戦

林説巨張用續篇卷之五

春説弓張月賣新卷之五

塞^{つか}。二尺五寸あり。され劍^{けん}拔^ひ挿^さ。矢^や庭^{にわ}ふ四五人を破^{やぶ}らば。
魚^{いさな}鱗^{うろこ}鶴^{つる}翼^{よく}も連^つつくる。大^{おほ}勢^{せい}が中^{ちゆう}へ割^わり入り。巴^おの字^じ十^{じゅう}文字^{もんじ}も
懸^か惱^{なう}。草^{くさ}榻^たの外^がは。梵^{ぼん}の天^{てん}通^{つう}當^{たう}れを頼^{たの}ひ。敵^{てき}さ伏^ふせ難^{がた}。
半^{はん}响^{きやう}あり。戦^{いくさ}も終^はみ。血^ちの流^{なが}して。深^{ふか}鹿^かの野^のも溢^{あふ}れ。死^しの横^{よこ}り。
共^{とも}塚^{づか}の穴^{あな}も臨^{のぞ}み異^いう。其^{その}武^ぶ勇^{ゆう}悔^{くわい}り。がら。多^{おほ}ひり。か。野^のの
軍^{ぐん}兵^{へい}辟^ひ易^いし。下^{くだ}る。れ。前^{まへ}と。し。門^{かど}外^{がわ}へ。と。退^ひく。その。死
查^さ國^{くに}吉^{きち}も。小^この。外^{がわ}も。腹^{はら}巻^まの横^{よこ}縫^{ぬい}と。な。突^つ切^きられて。深^{ふか}疵^し数^{かず}箇^こ
所^{ところ}負^おひ。れ。ば。今^{いま}。これ。も。なり。て。関^{せき}捷^{せつ}。破^{やぶ}と。閉^し家^け。火^ひ火^ひ
放^{はな}煙^{えん}。紛^まれ。忽^{たち}地^ぢは。落^お失^し。討^うち。の。軍^{ぐん}兵^{へい}。此^{こゝ}形^{かたち}勢^{せい}も。は。く。
周^{しゅう}章^{しょう}。中^{ちゆう}。に。門^{かど}扇^{あふ}。突^つ破^{やぶ}。て。鳴^な。び。前^{まへ}。に。入^いり。火^ひ火^ひ
ら。滅^めんと。す。折^おし。も。西^{せい}風^{ふう}烈^{れつ}。吹^ふて。瞬^まく。回^{まわ}り。便^{べん}屋^{おく}耳^{みみ}房^{ぼう}。
一^{いっ}宇^うも。残^{のこ}り。灰^{はい}燼^{せん}と。なり。しか。衆^{しゆう}皆^{みな}呆^あれ。せ。ん。と。ぞ。火^ひ火^ひ
り。屍^{しかばね}や。あ。れ。と。て。灰^{はい}火^ひか。れ。ま。れ。彼^か此^こを。索^{もと}も。ふ。それ。か。と。お。り。あ
り。の。は。し。この。儘^{まま}。は。立^たて。ば。罪^{ざい}科^か脱^{だつ}と。か。う。れ。し。と。い。う。あ
ま。う。して。う。身^みと。全^{ぜん}う。せ。ん。と。議^ぎす。れ。も。小^こ賢^{けん}。軍^{ぐん}兵^{へい}。と。と。出^いて
ら。あ。や。う。り。何^{なに}の。隨^ま。ま。え。あ。げ。る。が。その。解^とを。責^せら。れて。い。ひ。ま
ふ。よ。し。う。う。ん。立^たか。り。て。南^{なん}風^{ふう}原^{げん}の。親^{おや}方^{かた}。勢^{せい}も。う。う。ん。あ。ん。查^さ國^{くに}
吉^{きち}二^に。う。路^ろあり。て。牧^{まき}毛^{もう}國^{くに}典^{てん}が。妻^{つま}と。子^こども。を。刺^さ。り。家^け。は。火^ひ火^ひ
放^{はな}煙^{えん}の中^{ちゆう}に。跳^と入^いり。死^し。う。り。よ。う。て。その。首^{くび}。取^とり。て。獻^{けん}。す。り。ま。う。
は。ん。ふ。ま。で。う。吾^{われ}侍^し。罪^{つみ}せ。れ。ん。却^{かえ}。と。か。う。ざ。れ。恩^{おん}賞^{しょう}。あ。る。を。も
又^{また}。あ。り。が。し。よ。う。や。必^{ひつ}死^し。を。脱^{だつ}。と。り。と。も。毛^{もう}國^{くに}典^{てん}が。子^こい。も。ハ。な。る
少^{おほ}し。查^さ國^{くに}吉^{きち}と。深^{ふか}疵^しを。負^おひ。ぬ。あ。う。れ。ハ。家^け。と。喪^{むし}ひ。狗^{いぬ}鑿^{さう}。刺^さ

春説弓張月讀書解卷之三

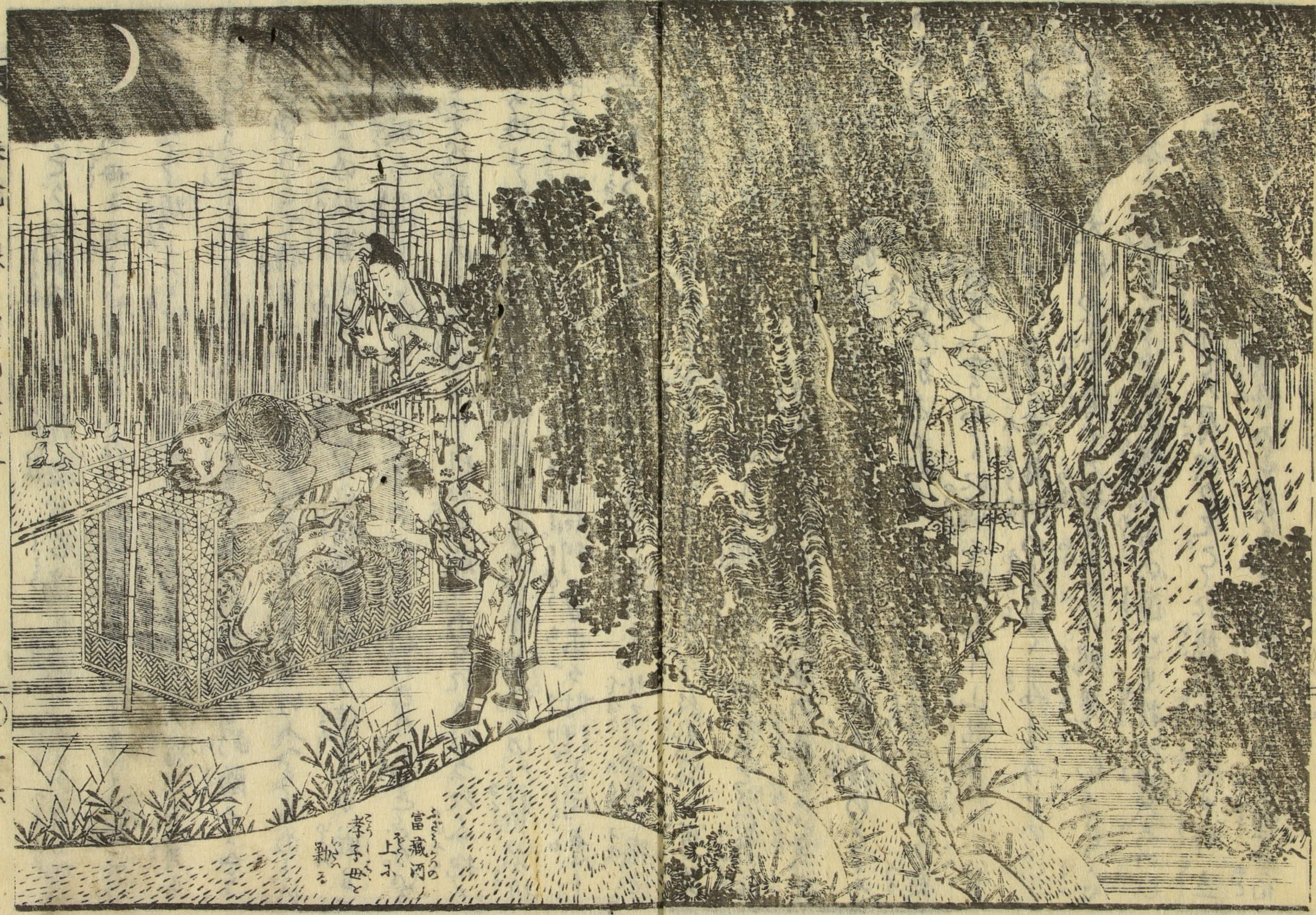
十一

してこれ猪のごとく。あざむく。ぼくも。自滅せん。疑ひはしと
 いか。衆皆きて。この縁をうらへ。雷同して。夢れ。自方の
 兵士が首にかけられ。大にやうなれ。小にやうなれ。擇りて
 火の中へ投入し。焼爛して後也。これに査圃吉。かれに毛圃丹が
 あ。りの兒子鶴亀。それが母新垣が首など。落く標の牌が
 耳に結び著。これを携て。通霄利勇が跡を追ひ。詰且首里
 の都へ立入り。練の越え。えあけ。利勇の軍兵ホと勞ひ
 て件の焼首が実檢し。やがて國興が首級と共。小泊津。島る
 に。焼爛とされ。その真偽がある。のみ。只松壽のこと。こ。火
 と。竊小冷咲ひ。凡人死して後。火に焼れ。の。口中に
 あり。生おぐ。焼る。の。口中に灰あり。今この首級とせ。れ
 と。又には。中。灰なし。さ。れ。利勇。軍兵ホの。いと。違へり。
 おり。毛圃丹の子ども。査圃吉。その。家。火。放。虚死して
 脱。去りたる。利勇。か。と。ける。火。焼。け。り。天。當。孝子
 義。男。が。憐。み。な。る。べ。差。夫。月。日。と。し。地。は。隆。と。逆。臣。亡。ひて。
 忠。臣。が。び。世。よ。出。ん。何。の。疑。う。め。ん。と。未。の。世。と。お。り。ひ
 され。却。説。毛。圃。丹。が。子。ども。鶴。亀。の。生。り。も。死。と。も。父。と。も。
 お。と。あ。く。も。迹。は。残。り。る。母。親。の。い。つ。か。お。り。め。れ。ま。あ。ん。と。こ。ろ。
 よ。く。も。脱。出。す。と。れ。あ。ひ。衣。小。身。が。窶。し。め。う。れ。怨。と。雪。れ。
 か。く。惜。う。ぬ。身。が。う。ら。る。い。と。小。川。の。徒。涉。裾。も。袂。も。乾
 あ。ぬ。夜。行。い。ら。な。つ。れ。な。く。人。小。昇。世。輜。が。つ。つ。か。く。や。落
 人。の。路。は。死。路。を。た。ご。り。つ。肩。の。ほ。て。り。も。堪。が。さ。け。れ。と。母。の。心。と。安ん

春一巻月經書卷二

とて兄も身も疲勞たるを聞きてをえせと。その夜の越来の山中
 お迷ひありし稚子も拾ひとりて母もすくむ同胞もらら食てや
 中へに鐵火凌ね樹蔭岳の狭みもみ倚て。四日と過せし。この
 処へ入けなれば山路なれど故郷へ程もかけなれば久恋の地ふあり
 久志と金武の二回切火越え。大宜味羽地の山里へ到らば首里へ
 し中城へも遠くて世を滑が不便なるべしとて同胞よく混合
 て。さて梓の越火母新垣よりせしむ新垣まで。アツクも女の
 るのこ。ともかくも。おん足ホク意お仕し。あふのれ久志も羽地
 も山北省の稍畫地あて道いと遠しとせくお熱いね逆旅の
 世火滑び人一個あつと足なね。十四と十二の兄弟が肩りて母
 火お行く行んと。おんとなれば所あるじ。急がせられて後ハコ
 毎年ぬきぬきして。うら臥とありあつねと。お持清くし。死日と
 稀なれば子どもハ只二人あつと。おんは熱い去年の暮あり
 半あつねと。おんは月も身も重く。道ゆくとも人なみ
 ね。年齒ゆるがれ子どもら母胸若く。母胸若く。さへ翅折
 られ親鳥の反哺おあ。の命火替ね。稍瞻めて啼つて。必
 ひもいふて。おんは勝へた。おんは。年火種へののを四十ふら
 くて又子火考へ生死の程も。おんは。つうなると。おんは。按司。國。おんは。海
 く。國。い。おんは。腹陽師。おんは。その人。おんは。考て。おんは。驚
 ね。おんは。おんは。腹。おんは。男。おんは。生。おんは。出。おんは。い。おんは。國
 王と仰せ。おんは。か。おんは。洪。おんは。福。おんは。の。おんは。り。おんは。と。おんは。い。おんは。も。おんは。惜。おんは。い。おんは。る。おんは。命。おんは。の。おんは。究。おんは。て
 短し。おんは。と。おんは。い。おんは。つ。おんは。を。おんは。誠。おんは。か。おんは。は。おんは。おんは。ひ。おんは。が。おんは。彼。おんは。ハ。おんは。利。おんは。勇。おんは。の。おんは。間。おんは。者。おんは。あ。おんは。く。

按司をわしくしりん為す。かくはにしらへられぬやあり。病おろく
 て懐妊たる母の死まで物成ありひ。多し。ハ年暮すくようた。病
 煩ひまのねと。寛枉ふ討とまひた。ころなれたりの命之強敵ゆ又
 命なり。羞かまはしれたるゆなれば。そのあまでもりんざり。されん原園
 子あて。父母の定うけ。襪襪の中。北谷なる濱川の上。捨
 られくる成。おん身同胞が祖父毛團相ひ。ひさうまひて。ひさ
 按司お妻しあへるこ。そのとれた。賜りり。九寸五分なる懐劍。當初
 洗う衣服の袖に巻添て送。おれ。おれ。のされハ實の親れ記念
 ろうん。秘蔵せよ。宣りせ。成世お有か。く。あ。今りて。あ。じ。の
 身放さ。舅とさう。は。ハ。仲。より。字。られ。命の親氏。の素
 姓もあ。ね。身。が。名家の妻となり。あ。孝行。され。子。二人
 せりて。幸ハあり。家艱お迷ひ。出。か。れ。親。れ。ハ。蒼。葉
 の蒼。あ。の。紅。葉。朝。細。ハ。漏。ても。轍。母。吻。く。母。を。ら。に。捨。置
 て。同胞ハ遠く。身。を。隠。し。時。成。結。て。仇。を。報。ひ。團。の。為。忠。義。を
 竭。して。多。くの。汚。名。成。雪。め。多。く。と。い。も。じ。ら。る。親。の。ころ
 ハ夜。の。影。の。腔。より。長。れ。別。と。お。り。が。ころ。袂。を。絞。り。の。ね。を。鶴
 亀。同胞。さ。ま。に。慰。す。中。中。に。鶴。を。擡。起。し。山路。を。北。へ。つ。く
 修。也。金。峯。の。間。切。の。ころ。富。藏。河。の上。近く。身。ま。り。この。河。の
 山。北。者。第一。の。大河。あ。て。日。暮。て。秘。成。出。た。鶴。亀。ハ。い。く。じ。く。心
 ぐう。ハ。急。とも。早。も。な。ら。り。ね。轎。歩。の。運。び。も。挾。れ。世。成。あ。の。ひ
 か。の。繁。薄。不。と。吻。た。て。肩。成。え。こ。に。憩。ひ。彼。首。も。停。ま
 河。原。う。て。へ。え。も。や。の。曠。野。の。と。あ。日。を。暮。し。秋。の。千。種。お。宿



春
説
月
續
卷
之
五

持
言
明
月
續
卷
之
五

富藏河
上
孝
子
母
勤

五
十
五

かりて。道をぐら准依したる。乾飯は石湯に浸し。五日の月と燭を
 去く。母は進んでせり。うねどに新垣の。かかともなればおひ
 お公持のう煩しく。秋風お吹曝され。この三四日露宿し。く。身も
 ひこしう冷され。や。俄頃お産の氣つれて。腸も割離る。や
 ぬおはゆれとて。物見の窓に。手ぬぐつ。苦痛のへうもあは
 鶴亀のこの形勢お連忙。脊をく。折腰を捨り。信守も勲を
 ども中城を渡るとれぬ。公のそく。て。茶割のこり。忘さう。い
 母して子や産りのや。えもなれぬ同胞が。あるにうひなれ。介抱も
 ぞんる。う。れ。暮積の蔓疾み。あ。わ。なり。え。と。い。ひ。慰。む。折
 し。も。われ。北谷の所公も。曩お中婦君利勇おが。奸計。お同意し。
 寧王女を失んぬ。辰の年月日時。生まれ。女子が。暮て。撮じ。

海神が。あり。え。と。せ。え。の。げ。緯。既。お。伎。倆。の。孫。お。入。り。ん。と。せ。い。前。忽。地
 毛國。お。子。看。破。せ。れ。隱。謀。を。地。に。發。覺。と。て。その。罪。お。の。が。身。一。つ
 お保る。や。て。北谷。お。追。放。せ。れ。と。い。ども。利勇。竊。お。これ。を。扶。お。し
 て。ふ。く。驟。お。た。れ。お。毛。國。再。討。れて。お。忌。憚。る。か。さ。も。ゆ。ら。び。う。り。く
 利勇。お。阿。公。お。矇。雲。か。謀。と。説。き。し。その。件。の。ゆ。え。ら。ら。に。せ。い。や。お。
 阿公。お。只。お。と。り。彼。此。を。排。絶。し。は。く。く。す。も。この。知。お。来。う。て。新。垣
 母子。が。お。体。を。關。親。既。お。その。産。の。氣。は。さ。さ。れ。を。あ。り。て。ふ。か。く
 欽。ひ。や。て。樹。蔭。に。立。出。つ。行。る。や。う。は。して。橋。の。内。に。入。り。へ。り。あ。く
 痛。旅。寝。お。宿。を。索。う。て。癒。ら。ら。ぬ。人。お。こ。も。見。公。お。ら。其。の。處
 退。り。人。城。が。かり。て。看。病。進。ら。ぬ。し。と。信。ら。ら。て。ほ。と。り。近。く。あ。り。ま。あ
 つ。され。と。同胞。へ。お。放。さ。ぬ。は。じめ。の。程。へ。固。辞。し。が。熟。視。と。は。身。の。ま

も賤しからば年の齡七十可あらんとおぼし老女なればあむし
 これが介抱をほく。母を看病さも。けが人をあくるにもあむし。と母
 思いて跨がしやう。吾侪ハ越来々近た。何れしの里人なるぞ。父と近
 属ガまうりて。なまんな初七の連夜あてりへ。母ハ平らなぬがもし
 めれと墓系せせし。としあふ。已こと大泣き。轎ハ扶乗して。やこの
 処までよける折る。猛小産の氣つたといとこへは。あつれある
 ぞ。茶割あふ。めつれし。と叮嚀母。母も共ふか。口説と。は
 うりたな。母子がうへ。漏はじと。と袖す。涙ハ畏難うりる。

第四十三回

腹を撈て阿公赤子大奪入
 棺を流て鶴亀亡父大見れ

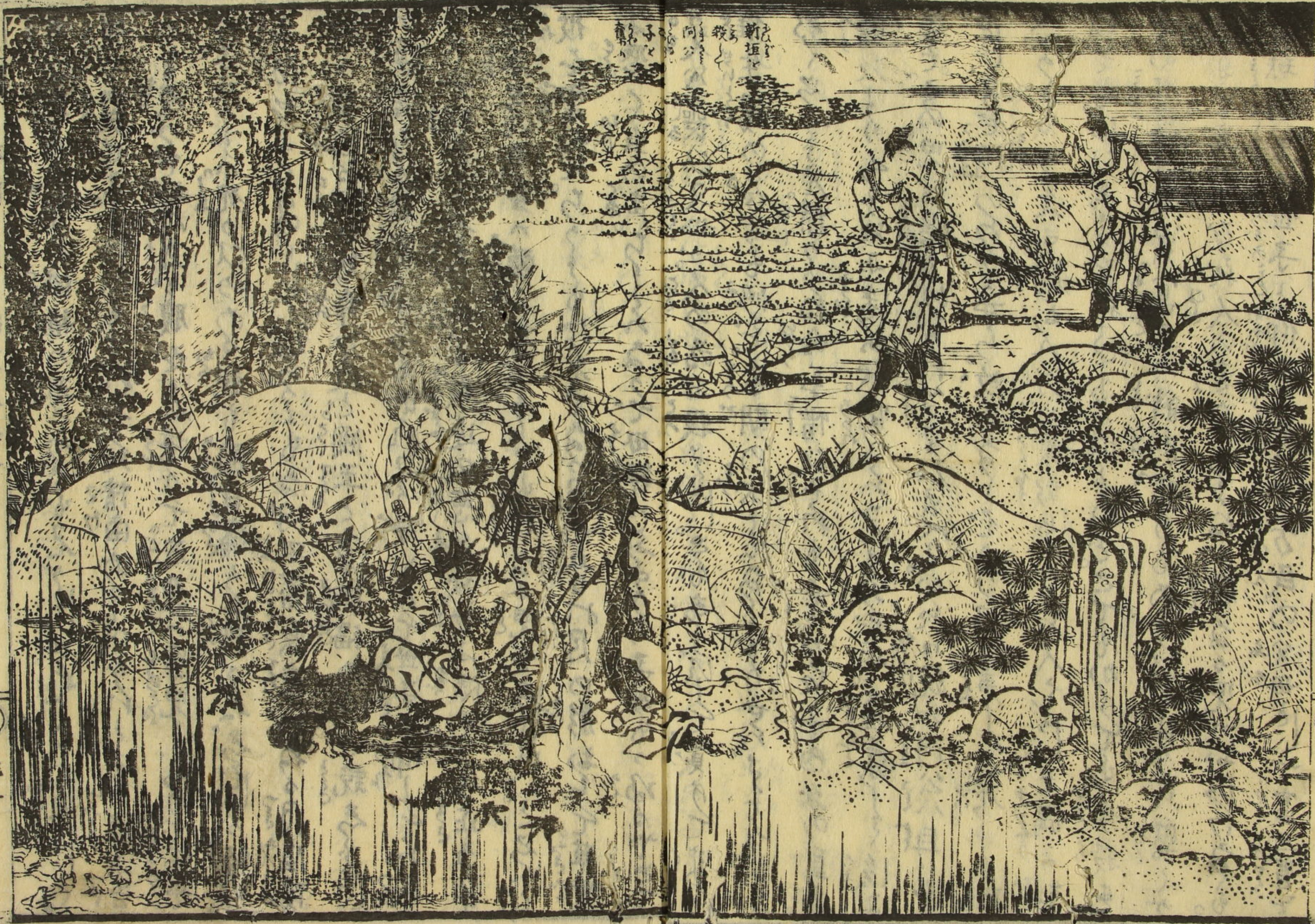
そのと阿公ハ縁由をきて。頻母そ。涙を押し拭ひ。か。れ曠野めて。

母公小産の氣はたあへ。おまじ。あな。お少年の介抱も。あふ。
 せ。と。お母。そ。大推量。と。痛く。こそ。竹。が。れ。む。は。波。か。の。
 親なるの。方技をめて。活業。と。し。れ。難産。よ。子の。生。ま。り。も。
 些。と。え。な。れて。竹。も。生。穂。波。あ。ら。ま。さ。か。さ。も。あ。ら。ん。ま。ら。その。ま。ら。を
 え。せ。ま。へ。と。い。ひ。う。て。鶴。亀。が。迹。み。居。り。り。轎。の。裏。へ。手。大。は。し。入
 る。新。垣。が。胸。さ。う。大。括。お。り。十。の。指。の。腹。を。ら。ら。返。し。診。つ。ま。じ
 ら。案。だ。こ。の。今。も。考。べ。た。ま。ら。なり。あ。ら。ん。も。夕。露。ふ。そ。ま。ら。う。て。い。ま
 く。冷。多。ひ。われ。が。輒。く。の。産。ご。と。けん。り。業。の。力。を。借。ま。あ。ら。ん。と。産
 母の。氣。の。よ。く。と。く。或。の。交。骨。用。と。或。の。胞。衣。下。ら。ん。い。と。難。産。お
 及。が。べ。し。且。お。両。足。の。腫。ふ。り。て。脚。の。指。の。間。は。黄。水。の。り。か。れ。ば。則
 子。氣。の。症。也。ら。ら。の。方。劑。の。べ。け。と。そ。の。醫。師。も。な。ね。ば。よ。う。く。そ

あらび。只速小催生湯を用ひし。催生湯ハ桃仁芍薬牡丹皮茯苓
 肉桂この五味を等分小瓶しては。この方ハ即仲景ハ桂枝茯苓
 丸にして。世俗のそめと。いふの足る。この世ハ北へ出る。れて富
 貴河と。つづ。ゆ。芍薬店あり。や。見公月も。没果る。路の海
 便。い。ん。そ。く。彼。処。へ。走。り。ゆ。え。茶。割。買。り。て。身。入。り。し。と。し。を
 が。せ。る。同。胞。へ。ま。ん。く。慌。忙。れ。つ。持。が。り。あ。や。う。これハ富貴河とや
 らんのは。より。い。わ。れ。く。件。の。茶。割。を。買。り。て。身。入。り。し。家。身。と
 あ。じ。し。も。母。の。ほ。ろ。り。が。離。れ。ど。よ。く。看。病。多。く。い。ひ。も。め。ど。北。は
 投。て。ぞ。走。去。り。れ。且。し。て。阿。公。と。高。女。に。告。う。ら。鳴。じ。鈍。り。や。
 あ。ま。り。に。火。急。なる。故。也。い。づ。れ。る。も。い。づ。り。彼。五。味。の。芍。薬。物。の。中。
 桃。仁。ハ。よ。く。妙。芍。薬。ハ。赤。れ。り。の。小。瓶。と。ぞ。れ。ハ。功。能。は。兄。公。ハ。い。ふ。と
 遠。く。も。ゆ。じ。道。を。あ。て。あ。う。い。ひ。も。人。と。焦。燥。あ。を。を
 い。と。り。い。と。ま。か。り。て。同。胞。り。も。母。公。の。傷。ハ。離。れ。ん。ハ。い。づ。り。し。し
 され。ば。と。て。勸。る。茶。割。切。能。く。ハ。作。み。す。り。と。し。や。よ。り。ん。か。や
 せん。と。年。母。の。勝。れ。怜。れ。れ。お。し。感。つ。る。ま。き。を。入。る。阿。公。と。茶。割
 あり。ま。る。の。二。町。金。が。尻。の。お。り。と。お。は。り。あ。ん。ど。う。幾。十。人。う。ら。う。す
 了。く。は。れ。ば。と。て。か。れ。何。の。要。あ。れ。た。と。い。ひ。一。波。女。く。が。憐。れ。る。と。い。つ
 親。ハ。い。ふ。と。い。へ。た。あ。う。ね。ハ。夜。行。が。怕。し。く。て。飲。を。や。め。れ。り。と。い。ふ。
 い。と。も。い。ふ。と。縮。ひ。し。ら。冬。虫。指。く。草。の。あ。り。踏。ち。う。ひ。て。い。ふ。
 了。い。阿。公。ハ。亀。ハ。後。影。が。木。が。ら。う。も。目。送。り。果。て。新。垣。お
 對。ひ。て。い。ふ。や。う。いと。苦。し。び。あ。い。え。え。と。波。女。く。が。い。ふ。や。よ。く。笑
 り。あ。い。の。氣。ハ。は。き。と。る。か。目。今。せ。る。べ。う。も。あ。ら。う。に。聖。の。朝。の。潮

あつては。と。あ。今。あ。あ。れ。同。胞。の。少。年。が。ま。ろ。く。便。な。ら。ず。の。
侍。り。と。ど。ろ。り。あ。て。ら。る。痛。は。う。さ。か。り。ん。腹。あ。る。子。の。欲。け。し。ま。侍。の。
中。う。大。竊。は。て。か。く。信。守。め。ん。歎。結。の。と。腹。ふ。子。あ。く。ハ。え。え。り。も。せ。
り。と。理。か。え。る。の。な。れ。と。と。十。と。紙。の。難。産。ハ。大。く。こ。の。生。か。じ。ら。う。と。
痛。せ。ら。り。あ。れ。お。と。こ。ひ。涕。り。て。腹。を。裂。し。て。見。ん。と。あ。う。せ。よ。
と。そ。う。懐。か。小。劔。の。あ。る。の。ら。に。は。め。り。の。際。の。あ。り。て。侍。り。
お。り。そ。れ。は。負。か。へ。し。ひ。う。けて。襟。の。間。ま。ま。と。し。入。り。引。出。と。劔。の。
衣。の。細。お。携。つ。て。新。垣。の。苦。い。は。る。の。息。下。は。阿。公。の。ら。ら。瞻。り。縁。故。ハ。
あ。ら。ね。とも。腹。あ。る。見。か。何。え。せ。ん。母。か。命。も。惜。く。ら。ね。と。子。と。産。ま。
て。死。と。る。り。の。怪。し。鳥。は。生。か。う。え。雨。の。夜。毎。お。迷。ひ。出。る。と。父。と。
あ。も。罪。障。ぬ。く。た。後。の。世。の。と。あ。れ。か。ら。れ。今。こ。ろ。の。子。と。も。ら。

が。父。ハ。喪。ひ。又。母。ハ。人。の。為。お。殺。と。し。そ。も。あ。ら。ば。く。て。買。り。て。買。れ。
催。生。湯。の。な。ま。も。似。と。未。期。の。水。も。あ。ら。ざ。り。せ。ん。と。そ。う。な。ま。こ。
形。く。あ。ら。ん。惜。く。ら。ね。命。を。惜。じ。そ。れ。も。と。う。な。れ。子。の。あ。る。鳥。夜。
暗。れ。ら。り。く。ら。れ。お。迷。ふ。大。憐。れ。ら。ん。え。ら。ら。ざ。り。や。産。後。し。後。子。
こ。も。の。児。だ。進。ま。し。べ。れ。せ。ら。れ。と。か。れ。口。説。バ。阿。公。ハ。耳。を。
は。じ。り。阿。ら。り。ら。ら。から。蚊。の。う。ら。む。り。お。る。声。し。て。老。く。ら。る。耳。
へ。あ。ら。な。く。え。ぞ。阿。お。ん。身。ハ。果。報。め。て。と。れ。人。し。じ。土。偶。は。對。
ひ。て。も。い。ひ。あ。ら。さ。れ。る。の。あ。の。ね。と。と。て。も。か。く。て。も。今。殺。し。
その。手。へ。せ。ら。る。冥。土。の。銭。別。惜。ら。も。め。ら。げ。こ。よ。か。れ。時。あ。ら。が。
情。ふ。こ。そ。い。う。か。れ。人。の。妻。ら。あ。ら。ね。と。腹。あ。る。見。か。お。ほ。け。ら。も。
琉。球。國。王。の。世。子。と。仰。せ。貴。れ。と。万。民。の。父。母。と。し。て。富。三。省。と。



春日見長月讀

新垣 殺 阿 子

林 説 巨 張 月 續 第 卷 之 五

九

有ふ到らん。かれ洪福の夢あざもえがじ。さればこそ鬼しく。
 腹を裂せよ。といひもすれ。ふた情由あるみかれど。その詳お告
 る。及ぶ。あん身。腹をうん捺して左孕の男児とありて正
 の子たつ。死がひのめる親も面目痛らん殺さぬ。あじが
 幸防せよ。とめくしく。らるるもなほ不審原来ゆる。月陰陽
 師が腹みる見へ短命なれど。國王とる。洪福あり。と説き。世
 へ実言なる歎。実みあもめれ。子とりて。世子と仰して。罪
 ろくて討さる。夫へ終も叛逆の悪名。世に流さる。正なる
 にせんや。身へ鹽よせ。らるるも腹みる見をせ。世に。とめく
 彼を禦べ。らるるもたえて。五月の五日れ月の影おちて。草葉
 小聚く虫の声。らるるも。母親へ。らるるの子ども。ゆるやとて。

戦栗る。伸あがれ。阿公の声さまうえて。めり。と罵り。
 へど。項ふ掛られ。囊の紐を。こ。割。臂短よ。わら。待。玉
 新垣が胸前。へん。仰まに突倒。玉散る刃を。以。て。膝
 かれ破。ハ叶若と魂消る。傷口。を。じ。入。こ。出。る。あ。違
 此男児あり。胞衣切放。る。あ。怒。地。わら。産。声。も。この世の風乃
 吹りて。ゆ。て。人。や。と。い。ふ。せ。て。劔。衣。う。ら。つ。血。塗。れ。て。
 び。強。糲。も。と。え。て。七。骸。の。袖。引。裂。衣。草。の。花。も。わ。ら。く。と。散。る。母
 の衣。出。羅。あ。め。う。て。鳴。子。の。緒。の。遠。く。響。も。少。年。お。が。と。や。ゆ。る。歎。と
 新護。中。で。袖。引。裂。む。赤。子。を。お。の。が。懐。へ。押。入。り。折。し。も。め。れ。焦。火
 て。く。して。あ。る。の。ゆ。り。け。阿。公。の。こ。れ。を。え。ん。も。く。睨。彼。を。二。人。の
 少年。あ。ん。親。子。が。素。姓。を。あ。る。よ。さ。ら。と。も。あ。る。べ。れ。この。懐。劔。なる。

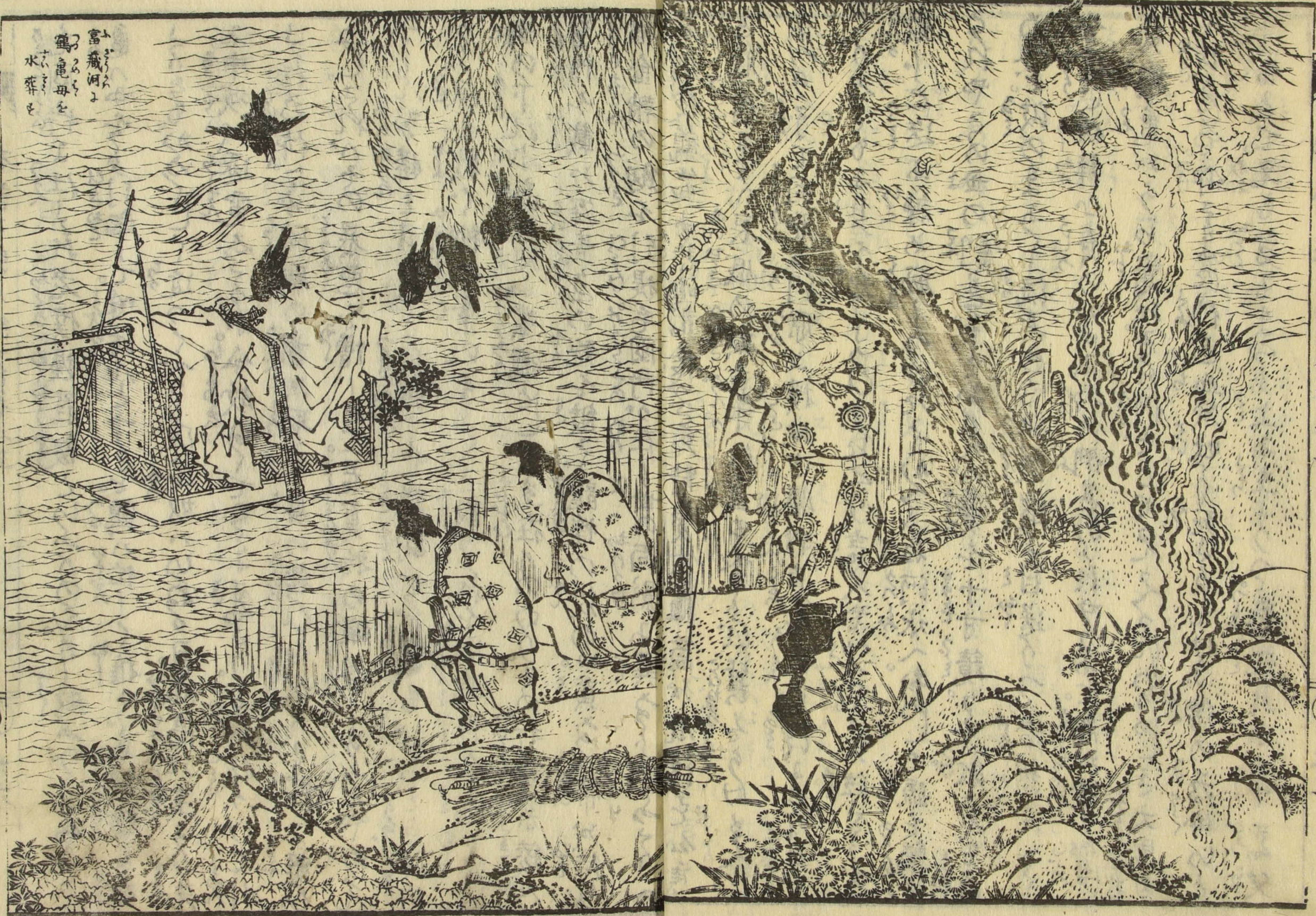
跡しおくりのものびと。とどろきごらつ血を拭ひ刃ががて鞘み納め腰
 小跨が懐小。あつち赤子に揺賺し足母信して逃去ぬかくともあ
 て鶴亀ハ四五町あつ過ぐらぬ。とどろきあつ似そ富義河へいしと違
 めて彼処もハセホ店りさう。河を流されハ人家もあつ。この敷
 かん。とどろ疑ひ同胞途よりとどろめなり乾箱守る翁小火とん
 びく。蕉火お路をどしどし。いづつに降りまれば胸えいさうら
 騒ぐに公まじく安うらてとどろ。すれとえも熟ね夜行ハ珠小東
 西火とんと株小跌ハ荆棘小足を傷られ聲じて降り著小ちとどろ
 赤子の泣声うさう母あゆ。さてハ恙あつらまれば。母公ハい
 小ならん。いさく公りとなしとて同胞喘ハ舊の処へ走り降り。ま
 火火抗く。轎の内ハ入るふ母ハ其処あつ。ばして右辺ある叢
 の中に休と腸長くあつ。鮮血ハ塗れたり。同胞ハこの景変ハ且驚
 ね且悲と。さついづめと泣叫び。かて左右りの抱起と母腹ハ切腹
 して死すれば。終く救ふべうもあつ。人問一生の哀傷ハ親ハ喪
 ひ子ハ後うにまうとさう。あつて非命小死する母が。ありしと変わる
 面敷がれど。なほ抱りあ飲。と揺動ハ悲歎。あつとあうり。落ハ
 さう。に年ハ勝。とハ草あつ。とれ涙を拭ひ。さう。ハ何とさあ彼
 鬼波さう。信母ハい。さう。ハ吾儕を遠離ハ。さう。小物のあれ
 ば。い。も曉らば。して欺。とセホ割買ハゆれ。とれを今さう。悔
 及ハ子ど胎内の子れええ。さう。難病のセホ物ハせん。とて殺してその
 子ハさう。たり。さん。あつ。ハさう。に朽を。とて蹉跎して泣ふ。れ。亀ハ
 息杖。うら。と。仇人ハ。忍ハ遠くハ。い。這奴。と。あ。と。勢ハ猛く。

まのる 裳を引くめ。やよほ多人 汝が志ハさるるがれど。野于玉の
くろく 仇人の往方と見えとあはせて 逐ふもいそ 及ぶれば 這奴が
面ハつれも 認むる。あはしが 程ハ脱るるも 天の羅ハへるも 漏れ 勅心
ふ 進んじて 却く 仇に 謀られ へるも ねむらひ 生る日乃
羨するも せんご 死に せむ。ひと 恥しむるあり。と 答へて 生平
母 眞ひた 汝は 母の 亡骸を 人ふえ せんハ 不孝也。さくく けさぬ
進んせん。といひ 諭し けり。つるも 枕方 後方ハ 立對ひ。あはしとそ
とどろく 蟬の うつろ 夢うつろ。あも 愛あも あられ 化野の 露ふ先
ごろろく 母の 空に 骸お。つる 孫子ハ 常る 風と 身お せる。茶毘
あふあふ 雀火の 暗に 迷を 照く けや。と 中や 納る 轡を 指ふ
搦る 柵の 杖折 して けひ いた 母の 恩。おろろ んと する。よ 添重く。り

肩入 且と 昇揚 して。と けひ 通り て 哽咽 する。兄ハ 街珠の 病る 鶴芽
ハ 浮木ハ 漂ふ 亀の 生死 流轉 する。眼前 富藏 河を 投て せる。
この とんま ぐの。琉球 國ハ 土葬 火葬 の 葬式 あり。水葬 の とりも
と せ。く。鶴 亀ハ とく して 母の 亡骸 河原 へ 昇ゆ けり。天を
その ぐと 明くる。貧乏 たる けり。足ること 欠ある あり。あはねど。貧乏
を生 平と せし。曼 かな 堪るる けり。あはれど。親 雲上 按司 といはれ ける。
人の子 けり。その 母ハ 花井 なる。棺も けり。導師 も あはれ。同胞 くれを
昇り 申す 友も けり。鳥ハ 鳴き。犬ハ 送り。や 水際 小轡 あり。
居る。その けり。これを けひ 出さ。浅す。けり。あはれ。も あはれ。と 此
河水ハ 涸る。とも 沈瀾の 乾く 漱ハ あはし。と て 同胞 あり。とも けり。
は 説て けり。抑家公ハ 鯁忠 申して。あはれ。君を 諫め 國の 患を

此言 野人 紅糸 待 五

りて父の患に多るふ良業却苦しと厭は寛枉ふ命を預し
 家壊と妻子眷属離散して操節止した母公と杜騙残毒
 なる老波を殺されて胎内の子にまされ親の像見なりとく
 年又秘流し多しと空劍併奪ひ去られし。過世の争は業
 因る。およそ滅の神の神明なるに衛めんと人もいひ
 それもあつたひと。虚言あてありとく老弱不定常な
 世に病ていひしなり多る。あつたあれるものも五日が回
 二親るが。非命ある世を去りて迹小残なる憂の争は
 何処へ流しゆく秋のわしの木の葉かきまて。凋落果てし追薦
 心。公むうに。向の水を受ゆ。と熱の苦艱を脱と六觸乃
 汚穢を雪ゆ。水清れば魚住と風静なれば船行と限か
 哀別夜鶴笛。小悲鳴。捨が。情愛生龜筒。脱落を公焦
 と腸腐。哀風の歎言。下に盡さ。は。冥をうけ人
 かつり了て同胞。河原に撲地と。眼晴声を惜と。且し
 て。あつたも。身を起し。ひなれり言。人や笑く。さ。法を
 歎と。送小諫。め。励。ゆ。か。河。水。へ。あ。り。て。流。を。轆。ゆ
 これや。この世の。と。お。り。人。の。憂。を。十。寸。鏡。か。教。え。も。由
 の。ど。波。の。ま。ふ。く。流。し。ゆ。河。隈。遠。目。送。り。つ。潜。然。と。し。く
 合掌。伏。拜。む。脊。の。か。こ。小。物。の。倒。し。か。お。中。う。あ。て。忽。地。撞。と。響。音
 う。鶴。亀。の。ら。ら。驚。れ。そ。の。何。ぞ。と。七。見。え。る。に。い。う。め。と。大。男。刃
 を。抜。け。て。仰。ま。よ。に。仆。し。血。吐。く。死。る。に。けり。緯。の。為。体。い。と
 不。審。と。て。兄。も。ま。ら。う。上。お。ま。より。つ。熟。視。れ。ふ。年。又。父



宮藏河子
鶴亀母を
水葬す

木言由引月紅外有集年三

九十五

毛國典ついでは仕つかこれ。老僕おきな握つか翁おきな報うらといふのそ。り救すくふべかりやとて
 亀かめハ女にを引ひ起おこして。呼よ泣なんとするを。鶴つるハ忙いそしく推おとらぬ。豺さしか狼ろうを死し
 ころすも。かろしく近ちかづくべし。這は奴やつハいぬる日ひ。恩おん高たか地ち主しゅより先ま
 小中城おなかつ逐お電でん走しゆるふ。今いま故こあててころすまら。刃やいば拔ひけて作し
 したるし為ため。不た同胞どうぱうの首くび取とる。身みの頼たのひを求もとんとせし疑うたがひ
 ぬし。されハその暴あや悪あくを憎にくむとて。君きみ真ま物ものの蹴け殺ころす。あやあや
 ずいずいんん勢せい憐れんとある。と凡つま彈たましして説と論ろんせむ。亀かめもげふ。と白しろ折せ
 々々。風かぜは戦たたかぐ柳やなぎの葉はのささぐと散ちりる。我われを同胞どうぱう奔はりて仰あやされが
 樹この下もと。小こ高たかれ処ところ。み。矇くら暗くらとして。ま在ま在まりのわり。その打うち拵しやう紫むら綾あや乃な
 官帽くわんぼうを載のせ。深こ音ね多たの絶たを被おす。龍幡りゆうばんの紋もんの黄きろる。帯おびは結むすひ
 描ま金がね鞘さやの劍けんを引ひ提ひ毛け國くに典てんが在あり。世よの面影おもかげみ異ちがふ。あつりの
 子こいもハこれをえん。あまふが父ちちあておし。らり。さては恙やまろく。て望まま
 軟な鶴つるふて。修しゆり。亀かめあて修しゆり。と名な告つつ。叫あびつ。慌あわ忙それ。走はり。あつり
 それハ忽たち地ち消きえて。又またら朝あ霧きりふ。ええつかく。江えの石いしふ。將まさがと
 厭いとりて。其その処ところ。足あ処ところと追おへ。逐おる。秋あき風かぜふ。声こゑ叫よび。くを河か鴨鴨哀あ
 且かつい。く。あ。波なみ高たかれ。富ふ前まへ河か。遠とほま。走はりて。ゆく。とも。あ
 そ北きた谷やと。流なが谷や山さんの。同おなな。高たか志し保ぼの。浦うらみ。感あむ。ひ。来きつ。このとれ
 夕ゆふ陽やう海うみふ。没くて。秋あきの。暑あつの。短みれ。を。あ。とも。く。何なに地ちぞ。と。同どう胞ぱう
 面おもて吹ふら。ら。わ。い。これ。も。あ。く。て。忙いそげ。ら。り。

椿説弓張月續編卷之五畢

